

学校規模によるメリット・デメリット

小規模校の主なメリットはきめ細かな指導、大規模校の主なメリットは多様な交流、人間関係の変えやすさ、部活やイベントの種類・活気が挙げられます

視点	小規模校		大規模校	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ■ 児童・生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい ■ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活躍機会を設定しやすい ■ 児童・生徒相互の人間関係が深まりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学級や学年の集団の中で、多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすい ■ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい ■ 児童・生徒数、教職員数が少ないため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りにくい ■ 部活動等の設置が限定され、選択の幅が狭まりやすい ■ クラス替えでメンバーが変化しないことから、などいじめが発生したときに当事者を離せないなど、人間関係が固定化しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 集団の中で、多様な考え方に触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて、一人ひとりの資質や能力をさらに伸ばしやすい ■ 運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に活気が生まれる ■ 児童・生徒数、教員数がある程度多いため、グループ学習や習熟度別学習、小学校の専科教員による指導など、多様な学習・指導形態を取りやすい ■ 様々な種類の部活動等の設置が可能となり、選択の幅が広がりやすい ■ クラス替えがしやすいことなどから、豊かな人間関係の構築や多様な集団の形成が図られやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員の目が各児童・生徒一人ひとりにとどきにくく、きめ細かな指導や児童・生徒の把握・管理が難しくなる ■ 学校行事や部活動等において、児童・生徒一人ひとりの個別の活躍機会を設定しにくい

学校規模によるメリット・デメリット

視点	小規模校		大規模校	
	メリット	デメリット	メリット	デメリット
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> ■ 全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になりやすい ■ 施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いにくい ■ 一人に複数の校務分掌が集中し、業務負担が過剰になりやすい ■ 教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力・切磋琢磨等が行いやすい ■ 校務分掌を行いやすく業務負担の平準化を図る余地がある ■ 出張、研修等に参加しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 教職員相互の連絡調整が図りづらい ■ 特別教室や体育館等の施設・設備の利用の面から、学校活動に一定の制約が生じる場合がある
その他	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者や地域社会との連携が図りやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ PTA活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ PTA活動等において、役割分担により、保護者の負担を分散しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 保護者や地域社会との連携が難しくなりやすい

出所: 文部科学省中央教育審議会初等中等教育分科会「小・中学校の設置・運営の在り方等に関する作業部会 配布資料」を基に、トーマツ作成

【まとめ】

- 適正規模・適正配置の検討にあたっては、今後教育の目指す姿の実現に有用なメリットを勘案する必要があります
- デメリットについては、運営方法など、規模以外での解決策を検討することが有効です